

紀 要

第 7 号

目 次

二つの前方後円墳	(細川修平)...	1
滋賀県出土の埴輪資料集(その4)	(稲垣正宏)...	27
近江へのアプローチ・その1		43
1. 高島郡の地形と条里	(神保忠宏)...	44
2. 高島郡における遺跡の動態 —今津町周辺をフィールドに—	(畑中英二)...	50
3. 高島郡の古代寺院	(重岡卓)...	57
4. 高島郡の鉄生産とその周辺	(大道和人)...	61
5. 高島郡の古代北陸道	(内田保之)...	66
6. 高島郡にみる古代国家	(細川修平)...	71
南北方位建物についての研究ノート	(田井中洋介)...	77
近江京域論の再検討・予察—7世紀における近江南部地域の諸相—	(相原嘉之)...	83
滋賀県における古代の土器様相・その1		
—湖南地域における無台杯身・かえり付き蓋の変遷を中心に—	(畑中英二)...	104
江州農具雑想ノート	(上垣幸徳)...	126
滋賀県甲賀郡土山町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布		
—土山町石造美術石材分布調査概要—	(兼康保明)...	131
滋賀県内出土漆製品集成—後編—	(中川正人)...	145

1994. 3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

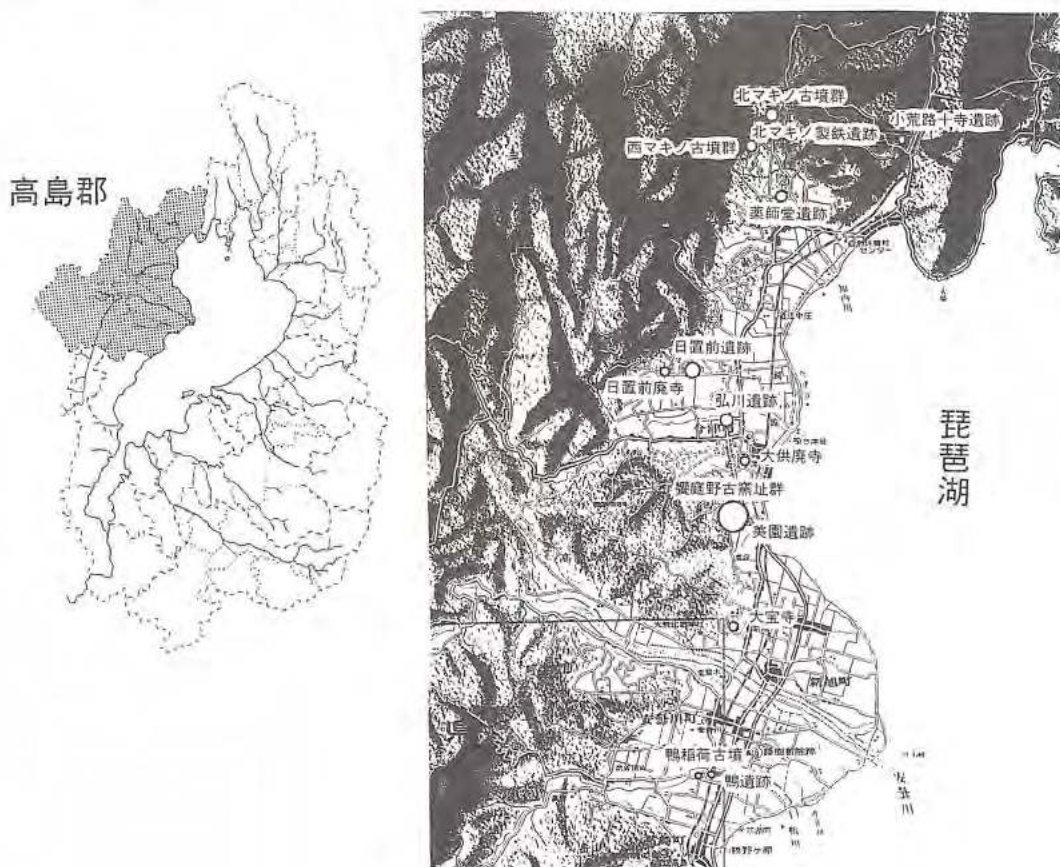
近江へのアプローチ・その1

はじめに

近年、発掘調査によってもたらさせる資料数は極めて膨大で、個々の資料そのものが持つ問題点も多岐にわたり枚挙に暇がない。考古資料を中心に用いた一地域史の叙述は極めて困難な作業であるといえる。小稿は「近江」を中心とする地域研究という日暮れて道遠いこの作業を、財団法人滋賀県文化財保護協会の有志による共同研究を行い、少しでも前進させようという試みである。

今回は、滋賀県北西部に位置する高島郡の地域史について、古代を中心とする時代の地形と条里、古代道の復元、遺跡の立地の特性、瓦の動向、手工業生産(鉄生産)、古墳時代から古代にかけての国家との関わりについてふれることとした。

これらのアプローチで全ての問題についてふれているとはいえないが、地域研究の一助となることを願うものである。また、個々の論考については諸兄姉からの御教示、御批判を賜りたい。



今回ふれる主な遺跡

4. 高島郡の鉄生産とその周辺

大道和人

高島郡における古代鉄生産の研究は、鉄に関心のある多くの人々による分布調査・発掘調査等を基礎に、考古学・文献史学・冶金学等多くの研究分野の対象となってきた。研究史を振り返ると、高島郡及び滋賀県の古代鉄生産の研究は、長い歴史を持つことがわかる。そこで小稿では、それらの研究成果を基に日本列島全体という視点から、高島郡及び滋賀県の古代鉄生産を見るところのように見えるのか、ということを一覧していきたいと思う。

これまでの研究をふまえ、高島郡の鉄生産の特色を端的に述べるならば、(1)古墳時代後期(6世紀の何れかの時期)に鉄生産が開始された可能性があること。(2)奈良時代には鉄生産が盛んに行われていた可能性が高いこと。(3)製鉄原料として主に鉄鉱石を使用していること。(4)文献史料に高島郡の鉄生産に関連する記事が記載されていること。(5)奈良時代の鉄生産に当時の有力者が関与していること。(6)製鉄遺跡群が存在していること。等にまとめることができよう。そこで以下では、「古墳時代の鉄生産」・「奈良時代の鉄生産」・「製鉄原料の問題」の三つの問題について、高島郡及び滋賀県の古代の鉄生産について概観し、私見及び今後の課題を指摘していきたい。

1. 古墳時代の鉄生産

高島郡の鉄生産が古墳時代後期にまで遡る可能性があることは、丸山竜平氏や森浩一氏により指摘されてきた。丸山氏は高島郡今津町に所在する甲塚古墳群1号墳より製練滓を採集され、それに伴って採集された須恵器の年代観から、5世紀末の段階に高島郡における鉄生産の可能性を指摘された。また森氏は高島郡マキノ町に所在するマキノ製鉄遺跡群に近接する北牧野と西牧野の二つの古墳群が、大規模であり、古墳時代後期に急に出現することや、両古墳群周辺地域の地理的環境から、その生産基盤を肥沃な平野部に求めることが不可能で、両古墳群の背後に広がる山野の開拓・領有をその生産基盤としていたと考える方が妥当であることを根拠として、両古墳群と鉄生産との関連を指摘された。前者の意見によれば、高島郡の鉄生産は日本列島内では最古の部類に入ることとなる。ただ、甲塚古墳群1号墳採集鉄滓が表採資料である点や、その鉄滓が製練滓であるという判断基準が明確でない点から、慎重にみて、今少し資料の蓄積を図る方がよいかもしれない。後者の意見も大変魅力的であるが、両古墳群の詳細は未知の部分が多く、また製鉄遺跡においても古墳時代にまで遡るものが確認されていないことから、この問題も今後に残された課題となろう。

古墳時代後期の鉄生産との関連で注目される遺物として、供献鉄滓(供献鉄塊とすべきものも含まれている)がある。分布でみる限り熊本・佐賀・福岡・広島・岡山・鳥取・兵庫・大阪・奈良・京都・岐阜と滋賀の各県にみられ、それ以外の地域にはほとんどみられない。そのうち岡山・福岡両県は数で他を圧倒しており、古墳時代後期の製鉄遺跡もこの両地域に集中的に分布することから、古墳時代後期に関して言えば供献鉄滓の見られる古墳と鉄生産の関係は深いようにみて



とれる。一方高島郡及び滋賀県においても古墳における供献鉄滓の報告がいくつかなされているが、先にあげた岡山・福岡両県と比較すると格段に少ない。この現象を素直に受け止めるならば、滋賀県における鉄生産の開始は岡山・福岡両県より若干遅れるか、古墳に鉄滓を供献する慣例があまりなかったのでは鉄生産を開始しても供献鉄滓というような現象が現れなかったのか、の何れかと判断される。また、発掘調査数の差とみるならば、今後の調査の数的増加に伴って古墳に供献された鉄滓の出土数が増加する事も予想される。それらの資料は滋賀県における鉄生産の開始・様相を知るための重要な資料となるため、発掘時の資料の取り扱いに注意が必要であろう。大澤正己氏等の研究によって、供献鉄滓は5世紀代の鍛冶滓から6世紀半ばには製練滓に質的な転換が行われていることが指摘されており、その傾向は岡山・福岡両県で顕著である。一方滋賀県の供献鉄滓においては今のところ確実に製練滓と考えられるものが見つかっておらず、この点においても初期製鉄地帯と言われる岡山・福岡両県との違いが顕著である。

滋賀県において、発掘調査され最古の製鉄遺跡とみなされている遺跡として伊香郡木之本町古橋遺跡が挙げられる。その操業推定年代は出土した須恵器の平瓶から6世紀末から7世紀初頭と推定されている。滋賀県の鉄生産の開始は、先にみた供献鉄滓の出土状況等も考慮にいれると、現状では古橋遺跡の操業推定年代である6世紀末から7世紀初頭頃である可能性が最も高いと思われる。その年代は岡山・福岡両県で鉄生産が盛んに行われだす6世紀中葉・後葉より若干遅れるようである。ただし先にみた高島郡の供献鉄滓例や製鉄遺跡周辺に古墳群のありかたから、鉄生産の開始年代は若干遡る可能性があり、今後の滋賀県の鉄研究の進展により鉄生産の開始時期

は変化する可能性を含んでいる。

2. 奈良時代の鉄生産

ここでは8世紀を中心とし、その前後する時期を含めた高島郡の鉄生産の状況について概観していきたい。高島郡において鉄生産が行われていたことを匂わす文献史料は、『続日本紀』天平宝字6年(762)「賜大帥藤原惠美朝臣押勝、近江国浅井高島二郡鉄穴各一处」の記事である。「鉄穴」に関しては鉄鉱石を採掘した場所であると考えられ、「惠美押勝」すなわち当時の有力者である藤原仲麻呂が、高島郡の鉄生産に関与していたことが判る。その他高島郡には限定されないが、近江に関する製鉄関連史料からみれば、奈良時代とその前後する時期に滋賀県下で鉄生産が盛んに行われていたことが伺われる。

滋賀県下では主に分布調査により製鉄遺跡が、大浦製鉄遺跡群・マキノ製鉄遺跡群・比良山製鉄遺跡群・逢坂山製鉄遺跡群・田上山麓製鉄遺跡群・瀬田丘陵製鉄遺跡群・伊吹山麓製鉄遺跡群の7地域に集中していることが判明している。ただ、製鉄遺跡が確認されていない湖東地域においても、その地質学的・歴史的背景を考慮に入れるならば、製鉄遺跡が発見され製鉄遺跡群を構成する可能性は高い。

滋賀県下では製鉄遺跡の調査が数例行われているが、高島郡における製鉄遺跡の考古学的調査はマキノ町北牧野製鉄A遺跡の調査一例のみである。出土した須恵器・土師器からは操業年代は8世紀代に比定することができる。この年代は先にみた『続日本紀』にみられる記載年代にほぼ対応し、8世紀代という推定操業年代は肯定される所であろう。ただ、北牧野製鉄A遺跡の調査

図2 奈良時代の製鉄遺跡の分布
「製鉄遺跡の分布」(参考文献・穴澤1992)と
各遺跡の調査報告書等を元に作成



は製鉄炉とその周辺部の狭い範囲での調査であったため、操業年代を比定するための土器の出土が非常に少なく、その操業年代は多少前後する可能性はあり、製鉄遺跡の年代比定の難しさを端的に示している。今後製鉄遺跡の調査の際には、自然科学的な年代決定の手法も採用し土器を中心とする考古資料との総合的検討により操業年代を考察することも考慮に入れる必要があろう。

北牧野製鉄A遺跡の製鉄炉の構造については報告書において、「溶鉱炉（報告書まま）を含めた全体の構造は、断面U字形の長方形の土坑を土中に掘り込み、その土坑の奥に溶鉱炉を据えたと考えられるが、溶鉱炉の本体は太平洋戦争中に屑鉄業者によって削平を受けている。」と報告がなされている。製鉄炉の構造の解釈については複数の見解が出されているが、その点については別稿において検討を加える予定である。何れにせよ、高島郡の製鉄遺跡の考古学的調査は北牧野製鉄A遺跡の調査一例であり、多くの興味深い問題が今後の課題として山積みされているとよいであろう。

3. 製鉄原料の問題

高島郡の鉄生産の特徴として忘れてはならない特徴の一つに磁鉄鉱系の鉄鉱石（岩鉄）を使用している点が挙げられる。古代日本列島内の製鉄原料としては現在のところ鉄鉱石と砂鉄の両者の使用が確認されているが、結果的には砂鉄製錬に集約されていくようである。古代において鉄鉱石を原料とする鉄生産を行っていることが確認されている地域としては、福岡・広島・岡山・滋賀の各県が挙げられる。これらの地域は先に挙げた供献鉄滓のみられる地域と重なる場合が多く、列島内で長方形箱形炉による鉄生産が開始された地域とよいであろう。近年福岡・広島・岡山県下で多くの製鉄遺跡の調査がなされているが、古墳時代後期の鉄鉱石を原料として使用する製鉄遺跡が多数発見されている。しかし8世紀段階には上記の三県のうち岡山県の一部の地域で鉄鉱石を原料として使用する鉄生産が行われているようであるが、マクロ的にみるならば徐々に砂鉄を原料とする鉄生産に移行しているようである。列島全体をみた場合も大まかには6世紀代は鉄鉱石中心、8世紀代は砂鉄中心と使用原料の変化が読み取れそうである。振り返って高島郡についてみると、先に述べた北牧野製鉄A遺跡の調査結果や『続日本紀』における「鉄穴」の記載等から、8世紀代においても依然として鉄鉱石を主原料として使用していることが推定される。滋賀県全体における状況も、近年調査された滋賀県下の製鉄遺跡の調査から、製鉄原料に鉄鉱石を使用していることが判明しており、原料の問題に関する限り高島郡との状況と大きな違いはなさそうである。この様に高島郡及び近江国の製鉄原料としての鉄鉱石使用は、全国的な鉄生産の趨勢の中でみると特異であることが指摘できる。このことが単に地質等の自然的要因のみに起因していたのか、或いはそれのみならず社会的要因も複雑に絡み合っていたのかどうかの検討も今後に残された課題となろう。

4. 今後の課題

小稿では最初に述べた高島郡の古代鉄生産の状況を、近年の古代鉄生産研究の現状に照らし合わせて概観してきたが、取り上げた三つの問題は、高島郡のみならず日本列島や朝鮮半島全体を含む古代の鉄生産の問題と深く関連している。その点については先学によって考察がなされているが、近年急激に増加している資料の検討も必要であろう。古代における近江の歴史的重要性は、

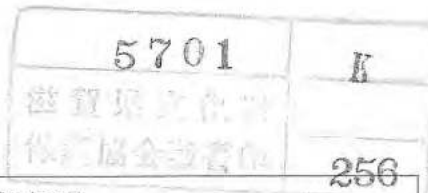
考古学をはじめ関連する多分野の研究者によって言われてきており、近江の一部である高島郡も例外でない。したがって、概観してきた古墳時代後期から奈良時代にまたがる高島郡に代表される滋賀県の鉄生産の状況も同様で、古代の高島郡の鉄生産は当時の複雑な社会状況と深い関わりを持っていたことを指摘することができよう。小稿では、高島郡及び滋賀県の古代の鉄生産を概観し、また他地域との比較を行うことにより、地域の特性や課題のいくつかを抽出することができた。今後は小稿で抽出された課題について考古資料からの検討を更に深め、高島郡及び滋賀県の鉄生産と、そこから派生する歴史的諸現象についての考察を進めていきたいと考えている。

参考文献

- ・ 森浩一「滋賀県北牧野製鉄遺跡調査報告」(『若狭・近江・讃岐・阿波における古代生産遺跡の調査』同志社大学文化学科 1971年)
- ・ 丸山竜平「近江製鉄史序説」(『日本史論叢』第8輯 日本史論叢会 1980年)
- ・ 大澤正己「古墳出土鉄滓からみた古代製鉄」(『日本製鉄史論集』たたら研究会 1983年)
- ・ 桂敬・福田豊彦「広島県と滋賀県における岩鉄製鉄」(『日本歴史』448号 日本歴史学会 1985年)
- ・ 丸山竜平「各地域の製練・鍛冶道構と鉄研究 近畿地方」(『日本古代の鉄生産』六興出版 1991年)
- ・ 穴澤義功「日本古代の鉄生産」(『シンポジウム・九州古代の鉄生産をさぐる』シンポジウム九州古代の鉄生産をさぐる 実行委員会 1992年)

編集後記

今年度は雨が多く冷夏であり、どの現場もいたずらに排水作業を繰り返し時間に追われて苦悩の日々を過ごされたことと思います。本紀要も、第7号を迎え、本号には予想を越える14編の論考を掲載することが出来ました。調査に追われながらも、日頃の各自の問題意識と研鑽の結果であるといえるでしょう。本号が「近江」や「文化財」への理解の一助となり、読者の方々からの御指導、御鞭撻が賜れば幸いです。



平成6年3月

紀要 第7号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印刷 宮川印刷株式会社
大津市富士見台3番18号
Tel(0775)33-1241